

効	率	至	上	主	義	に	基	づ	い
て	一	直	線	に	的	地	ま	で	
突	き	進	む	よ	う	な	ア	プ	口
丨	チ	の	方	法	に	疑	問	符	が
つ	い	て	い	る	。	右	往	左	往
か	つ	紆	余	曲	折	し	な	が	ら
多	様	な	余	剩	価	値	を	獲	得
し	て	目	的	地	に	辿	り	着	く
手	法	が	、	こ	れ	か	ら	の	豊
か	な	人	材	を	生	み	出	す	。

「即戦力」を求めるあまり、社会のいたるところで人材教育の「促成栽培」が執り行われて来た。それは、「とりあえず…の具現化」であり、「フエイクの増殖」であった。世間では、本質を見極めることのできる「目利き」が激減し、「一般化」という名の「素人化」がまん延してしまった。「遊び」をキーワードに「無駄」の価値化が進められようとしている。その礎となるのが「Sターーン」という概念である。これは、「直線の最短距離で目的地に到達しよう、という効率至上主義を捨て、道草を楽しみながら目的地を目指そう」という概念である。右往左往して迷ってみたり、紆余曲折して悩んでみたり……。そんな「遊び」の中で、多様な余剰価値や付加価値を獲得していこうというものである。

本当の豊かさは、さまざま無駄の集積から生まれるということを知る「生活巧者」は、寄り道を愉しみながら「本物の目利き」を目指す。いきなりゴールを目指すことの寂しさ、空しさに気づく人が増えてきて、Sターーンの価値は今後ますます増幅されていくだろう。